



2011年2月 (シャミナード年)

「おとめの名はマリアといった」(ルカ1章27節)

ギヨーム・ヨゼフ・シャミナード：マリアから御子へ

1801年2月2日。コングレガシオンの創立：マリアニスト家族の始まり

1801年2月2日、2か月間の熟慮と準備の後、信徒コングレガシオンの創立に関わったメンバーは、福音書の上に手を置いて次のように宣誓した。「わたくしは(霊名だけ)、神の僕であり、聖なる、使徒的、ローマ・カトリック教会の子として、汚れなく宿られた至聖なるおとめマリアの崇敬のために献身し、わが身を奉獻いたします。男女青年の母としてマリアを褒め称え、力の限りマリアを敬わせるように努めることを誓約いたします。それゆえ、神がわたくしを助けてくださいますように、そして聖なる福音のあかし人となれますように」(Agmar 47, 2, 11)

この時、誓約した10名のコングレガニストたち

ベルナール・ロティは聖職者。

ダービニャク並びにルイーアーノルド・ラファークは兵役義務を終えたところでした。

レイモンド・ラファークは27歳、ルイーアーノルドの従兄弟で教師。

ジャン・バプティスト・エステベネ、24歳、教師、全寮制学校の校長。

エティエンヌ・デュコ、25歳、靴屋。

フランソア・タピ、23歳、ジャン・バプティスト・デュション、19歳、神学生志願者。

ピエール・カプデビル。彼はまだ学生であったが、彼も神学生志願者。1802年2月帰天。

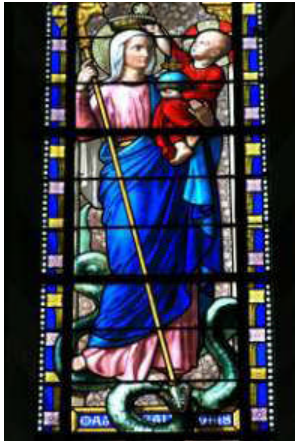
アレクサンドル・デュボスク。

「適格者探しが一番の悩みの種で、このことが1801年の全期間を通しての募集活動の特徴付けていた。それは必要欠くべからざることであった。無関心な志願者がやって来た時は、彼らを奮い立たせるために、私たち自身それに対応する熱心なメンバーであることが求められる。最初の年の募集した志願者の中に、創立当初のメンバーと同程度の資質に恵まれた人材を計算できたのは事実である。」(ヴェリエー師、Jalons II-73-77頁)

そしてそれから

1801年3月25日。コングレガシオンに女子の枝が出来た。その最初の9名のメンバーの中にマリーテレーズ・ド・ラムルス嬢がいた。大人の部門(セクション)の始まり (男子：1802年。女子：1804年。司祭：1804年)。

- 1804年。アデル・ド・トランケレオンが「小さな会」を創立した。この会は1808年からボルドーに創立されていた「小さな会」と親しくなった。
- 1809年から世の中で奉献生活を試みた。
- 1816年。アデルは「小さな会」に所属する他の5名のメンバーと共に「汚れなきマリア会」を創立した。
- 1817年。5月に5名のコングレガニストはシャミナード神父に「マリア会」創立のために自己奉献をした。



“彼女はおまえの頭を砕いた、
これからも彼女はいつもお前の頭を砕くであろう”

グランドリュのセントフィベル教会の
ステンドグラス（1750年）

ギヨーム・ヨゼフ、あなたは私たちに何をおおせられますか？

「私たちはまだ幼児の時のあらゆる弱さを持っています。しかしながら私たちの尊い御母マリアへの信頼は揺るぎません。... 私たちの誕生の時から彼女はわたしたちに、驚くべき勝利をもたらされました。」（L II - 343。1825年5月19日 カイエ師に宛てた手紙）

「わたくしは聖なるおとめマリアのところへ馳せ参ずること以外に何の方策も持っていません。」（L II - 575。1831年1月20日 ララン師への手紙）

聖母マリア、「わたくしはマリア会の行く末と指導をあなたに絶えずゆだねます。このような時勢と状況下にあっては私自身でマリア会を統治するのは不可能だからです。」（L III - 640。1832年8月23日 ララン師への手紙）

「随分前から、私と他の人々に示された神の大きな慈しみによって、私はただ尊いおとめマリアに対する崇敬を広め、こうして毎日、マリアの家族を成長させ、増加させる為にだけ生き、また呼吸しています。」（L II - 381。1825年12月5日 オーシュの神学生達への手紙）

「マリアへのあなたの信心が強まるにつれて、あなたはそれだけ巧みにそれを他の人に植え付けるようになるでしょう。」（L III - 661。1833年1月23日 ララン師への手紙）

「わが子たちよ、マリア会を創立された方はいとも聖なるおとめマリアです。そして彼女は
この会がこのような形に構成されることも望まれたのです。私は、貧しい代理人であることを
除けば、何の役にも立たない者です。最初の会員たちを選ばれたのも、これからもずっと
そのようになさるのも聖なるおとめマリアなのです。」(レオン・メイエル師。 *Inquisitio*,
186 頁)。この考えは確かにすべてのマリアニスト家族に適応できるものです。

あなた方は汚れなく宿られた方の御旗印のもとに戦いなさい。そうすることは何と幸運なこ
とか。昔コンスタンチヌス大帝に、この印のもとにあなたは勝利しますと言われたように、
あなた方に叫ぶ天からの声を聞きなさい。この旗印であなた方は勝利するでしょう。

(L II-381。1825年5月12日 オーシュの神学生に宛てた手紙)

マリア会の歩みの段階

ペリグー



ペリグーの聖フロン大聖堂の祭壇の装飾衝立彫刻壁
(17世紀)は聖母マリアへのお告げ、そして被昇天
の聖母を想起させます。

少年時代のギヨームは母親からマリア信心の手ほ
どきをうけて、マリアへの崇敬が深められていった
のです。

ノートルダム・デ・ヴェルデレ

12歳の頃、ギヨーム・ヨゼフはミュシダンからヴェルデレのノートルダム聖堂までの80
キロメートルの距離を徒歩で踏破した。ギヨームが遊んでいて不意に足を骨折したけれども
回復したので、兄のジャン・バプティストと連れだって、感謝の巡礼をしたのです。骨折し
た時の状況は絶望的でしたが、もしも足が治ったらヴェルデレ教会に巡礼すると願をかけて
祈ったら、シャミナード師から見て奇跡としか考えられない回復の恵みを得たのです。



ミュシダンの町にある岩のノートルダム教会



ミュシダンの町にあるこの巡礼聖堂は、サン・シャルの小神学校によって管理されていたが、巡礼地の一つであり、多く人々が集まって祈る場所となっている。教区の公教要理の本を通して、まだ子供だったギヨームは、「マリアへの祈りや、聖母マリアの善徳を一つでも真似ることで、マリアを賛美することのないまま日々を過ごさないようにしたいと心掛けた。」小神学校そのものはマリアへの根深い精神で活気づけられていた。聖堂は汚れなき御宿りの聖母に献堂されていて、そこでコングレガシオン・マリアルの集会が行われていた。

1776年にサン・シャルの司祭達の協会に入会していたシャミナード師は、1785年に叙階された。ノートルダム・デ・ロック教会で土曜日のミサを定期的に行った。彼はロック教会の主任司祭である兄のジャン・バプティストと共に、ロザリオの信徒会の一員となった。このロザリオ信徒会のメンバーは、「それぞれの活動の始めにしばし心を静めることにしていた。それは、イエス・キリストや聖母マリアは次のような事をなさる時、どのように考えて行動されたのだろうかについてしばし黙想するためでした。知識がどれほど増えたか、マリアを模倣しマリアへの愛がどれ位進歩したか、イエスとマリアの謙遜、彼らの清貧、聖性、従順、神の御旨への委託、魂の救いと神の栄光のために活動することによどの位進歩したか、聖なるおとめマリアに抱かれているイエスを愛するために何をなすべきかを黙想したのです。」(ヴェリエー師、Jalons I)

この御像は二つの観点、即ち、幼子イエスとキリストの死去した肉体とを合わせ持つ独創的な御像です。マリアはその両方とも一息子の傍らで従順の道を要約しつつ合わせ持っている。私たちにとっても観想すべき美しい像です。

サラゴサの柱の聖母

しばしば非常に危険な状況のなかで、ギヨームはボルドーで7年間司牧に携わった。状況は決して安易にはならず、逃亡の時が訪れた。1797年10月11日サラゴサで、柱の聖母の保護の祝日に何が起きたかご存じでしょう。三年間、ギヨームはそこで過ごし、彼の生涯にかけがえのない影響を与えることになったのです。彼のマリアへの信心はますます強まったのです。



彼にとってそれは退却の時、離脱の時、祈りの時、神への奉獻の時となったのですが、強度の霊的で、教會的で、そして宣教師としての準備の時でもあったのです。

汚れなきマリアに仕える

かつてよりも確信したことは、特に「宗教的無関心という大異端」に対する新たな勝利がマリアに留保されたことです。シャミナード師はそのすべての活動をマリアの保護のもとに行った。辛うじてフランスのボルドーへ戻り、そこで男子青年のコングレガシオンを始めたのが1800年12月8日のことでした。1801年2月2日には、コングレガニスト達はもう誓約をしていたのです。1801年3月25日、最初の女子青年たちが誓約を行いました。これらのことは、マリアへの道を辿る時を記したものです。同様に、ボルドーに創立者シャミナード師の、一時しのぎ的な最初の小礼拝堂（Oratoire）が、アルノー・ミクウ通りに、初めて建てられ、汚れなきマリアに献堂された（創立の精神1巻。157参照）。12月8日が信徒コングレガシオンの保護の祝日として今日まで熱心に祝われているのは極めて当然のことです。

頂いた召命に忠実なギヨーム・ヨゼフは、マリアとの誓約（L'alliance）の宣教師的な原動力の中から発生した他の枝にも手を付けたのです。生涯の最期の日まで、創立者は汚れなきおとめマリアのそばに倦むことなく我が身を置く気になっていたに違いありません。

祝うべき月日。 2月2日：主イエスの奉献の祝日—ボルドーにおけるコングレガシオンの始まり（マリアの家族の信徒の枝）。12名の最初のメンバーがマリア様に奉献をした。